

1 審議会名	上田市総合計画審議会（第2回福祉健康部会）
2 日時	令和元年11月5日 午後3時00分から午後5時30分まで
3 会場	市役所南庁舎 6階 真田・千曲の間
4 出席者	宮之上孝司部会長、春日晋委員、熊井健二委員、小池純子委員、佐藤永寿子委員、高柳静委員、鳥羽泰之委員、宮本恵美委員、母袋卓郎委員
5 市側出席者	近藤福祉部長、小林健康こども未来部長、浅野健康こども未来部参事、小坂福祉課長、堀内障がい者支援課長、藤沢高齢者介護課長、室賀健康推進課長、春原国保年金課長、宮沢保育課長、山賀子育て・子育て支援課長、西澤移住交流推進課縁づくり担当係長、櫻井福祉課生活支援担当係長、町田健康推進課保健予防担当係長、原政策企画課主査
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	なし 記者 なし
8 会議概要作成年月日	令和元年11月13日
協 議 事 項 等	

1 開 会 (福祉課長)
2 あいさつ (宮之上部会長)、委員自己紹介
3 議 事
(1) 分野別意見聴取 (市民意見の集約) について
・ 候補団体としてチャレンジママプロジェクト、上田市民生委員・児童委員協議会を事務局から提案
・ 以降、協議
(委 員) 5団体くらいの候補の中から選定すべきでないか。2団体に絞った理由は何か。
(事務局) 5年前の計画策定の際に5団体を候補として提示したが、結果としてすべての団体の意見聴取をすることとなった経過がある。今回、部会の審議時間が限られる中で、事務局から福祉部1団体、健康こども未来部1団体の計2団体を候補として提示したものである。
○協議結果：当面、候補の2団体で進めることとする。
(2) 「前期まちづくり計画」の進捗状況及び「後期まちづくり計画」に向けた方向性等について
・ 「前期まちづくり計画検証シート」により、主だった施策の進捗状況等について節ごとに担当者から説明
・ 以降、協議
○4-1-1について
(委 員) 子どもの自殺防止、食育について、子どもと常に接している教育現場との連携はどうか。
(事務局) 自殺防止については、課題となっているゲートキーパー養成講座に学校教員に参加してもらうなど連携しているが、平成30年度に自殺対策計画を策定したので、後期計画には自殺対策計画も盛り込んでいきたい。食育についても、学校での取り組みが重要であると認識しており、学校と連携して進めている。
(委 員) 特定健診の受診状況について、企業で実施している分は統計に反映しているか。
(事務局) 市は国保加入者を対象に実施している。企業で実施されている分は把握できていない。
○4-1-2について
(委 員) アンケート結果を見ると地域医療に対し満足していない人が多いが、具体的にどういう不満があるか把握しているか。
(事務局) 自由意見が参考になるが、まだ集計できていない。
(委 員) 地域医療では医師、看護師の確保が最大の課題である。看護学校でも生徒を集めるのに苦労している。行政でも様々な施策を実施しているが、確保になかなか繋がっていかない。
市立産婦人科病院の医師不足についても、安心してお産ができる体制の確保という意味で大きな課題である。
(委 員) 発達障がいの受診をするのに1年待ちといった状況もあり、子育て中の母親たちにとって

は障がい児の医療機関の受診が大きな課題である。

また、感染症予防の観点から重症患者が在宅で医療が受けられる体制の整備も検討できればと考えている。

(委員) 発達障がい児の分野は専門医でないと診療ができない分野であり、特に医師不足が深刻な状況である。子どもたちの将来を考えると大きな課題である。

往診についても対応できる医師がほとんどいない状況である。

○4-1-3について

(委員) 地域包括支援センターの総合相談窓口は地域で非常に大きな役割を担っている。相談体制の維持・充実を図ってもらいたい。

○4-2-1について

特になし

○4-2-2について

(委員) 医師会では中学校単位で医療班を組織し、災害時に介助が必要な方を支援する体制を整備している。介助が必要な方を把握するのに住民支え合いマップは非常に役立つものだが、個人情報への取扱いに課題があり活用が進んでいない。災害時の支え合いについて住民理解が必要である。

(委員) ボランティア活動が世間一般に浸透してきているが、日ごろからの住民の助け合いの精神を醸成したり、災害時のボランティアセンターや避難所における自治会の役割を強化したりするなど、支え合いの仕組みづくりを後期計画には盛り込んでもらいたい。

(委員) 障がいなどで避難所へ自ら避難できない人に対して、地域としてどのような支援ができるのか検討が必要である。

○4-2-3について

特になし

○4-2-4について

(委員) 子育て支援の分野でいう「地域」とはどのような単位か。

(事務局) 子育て中にもかかわらず身近に頼れる人がいない人が約半数いると言われている。そのような状況では、子育てを応援したいという市民全てが「地域」とであると捉えている。

(委員) LINEの活用について、情報の信用性についてどのように考えているか。

(事務局) 子育てに関する情報が溢れていることで、逆に子育て中の親が疲弊している現状がある。多くの親が利用するLINEを活用し、市から責任ある情報を発信することに意義があると考えている。

(委員) 働きながら子育てをする親が増えている現状で、特別な配慮が必要な子どもを持つ親に対し、休暇や勤務時間等の面で特別な支援が可能かどうか検討してもらいたい。

○全体を通じて

(委員) 提言として

- ・自分の健康に関心を持つための「私の健康手帳」といったものの導入はどうか。
- ・認知症サポーターが地域で今後どれだけ必要になるか、あらかじめ示してもらえれば、自治会でも協力できることがあると思う。
- ・地域包括支援センターの今後の人材確保のために、その役割を学校へ伝える取り組みが必要ではないか。
- ・民生委員の人材確保が困難になっている状況で、民生委員に準じるような役職を創設してはどうか。
- ・広報うえだに健康・福祉に関する情報を一口メモの形で掲載してはどうか。

(3) その他

特になし

4 事務連絡

- ・次回の日程、場所を説明 令和元年12月19日(木) ひとまちげんき・健康プラザ
- ・次々回の日程、場所については後日改めて通知

5 閉会